

令和7年度すくわくプログラム活動報告

江戸川区 堀江第三保育園

テーマ「 自然 」



子ども達は栽培物や飼育物を育てることが大好き！子ども達が主体的に親しみをもって虫や草花の飼育活動にかかわれるのではないかと考え、“自然と親しむ”をテーマに、各年齢であおむし、ダンゴムシ、カニ、カブトムシの飼育や、パプリカ、ひまわり、スイカなどの栽培を始めてみました。



みんなで種をまいたひまわりに子ども用のじょうろを使って水をあげました。園庭に遊びに出ると一番にひまわりやパプリカの様子を見に行っていました。実や花が咲くと「みてみて！」と保育士に知らせたり、収穫したひまわりの種を並べて「いっぱい！」と驚いたりしていました。



スイカを育ててみました。雑草を抜いたり、水をあげたり、丁寧に育てていったのですが、猛暑のせいかなかなか大きくなりませんでした。

子ども達も「どうしてかな？」「もっとお水をあげてみたらどう？」と話し合い、あきらめずに育てたところ、立派なスイカが4つ収穫出来ました。

育てたスイカで

『いるか組、くじら組合同スイカ割り大会』を楽しみました。



園庭のみかんの木についていたちょうちの卵を飼育ケースに入れて、あおむしを育てました。「はっぱたべてるね」「うんちがいっぱい!」と気づいたことを友だちと一緒に嬉しそうに話していました。

はらぺこあおむしの絵本を持って来て、「おんなじ!」を発見した子もいました。



近隣の川からやってきたカニを育てました。カニの特徴を捉えながら、『カニの絵』を描いた子もいました。「どんなごはんをたべるの?」と興味をもって、保育士と一緒にえさやりや飼育ケースの掃除をする子もいました。

カニが脱皮すると「カニがふたりになった!」とびっくりしていました。

皮もカニだと思って名前をつけようとした子、別の種類のカニが増えたと思って図鑑で調べ、色から推測して、本体を“イワガニ”、皮を“ケガニ”と考えた子もいました。本当はアカテガニなのですが、“子どもが自分で一生懸命調べる”という自発的な行動がとても嬉しくて、「アカテガニだよ」という真実を保育士が簡単に伝えることは、あえてしませんでした。



本体のカニ



皮脱後の皮

まとめ

それぞれの体験を通して、わくわくを感じたり新たな発見があったりとさまざまな姿がありました。“どうして〇〇なのかな?”という疑問を自分の経験から推測して話す子や、図鑑で調べる子などさまざまでしたが、子ども達は日々の変化を発見して喜び、考えたこと、気づいたことなどについて、保育士や友だちと話し合っていました。

今後も栽培物や生き物たちの成長や変化とともに子どもたちの気づきや声に着目し、栽培や飼育することの楽しさ、変化する不思議さなどを感じていけたらと思います。